

3-2 第2分科会「教材としての『FIFA ワールドカップ南アフリカ大会』」まとめ

担当 伊藤恵造

分科会テーマ	教材としての「FIFA ワールドカップ南アフリカ大会」
担当者・メンバー	担 当 者：伊藤恵造 メンバ－：阿部大紀、安倍政輝、五十嵐翔吾、石川達基、大木陽平、大平敦史、菊池雄太、齊藤 愛、武田隼人、藤木雄也、米澤 紳、朝倉龍太郎、伊岡森真由、老山友理、進藤夏美、藤井恵理、神戸智広、白取大輔、西岡 塁（19名）
活動の概要	日本国内のみならず世界中の人々を「熱狂」させた「FIFA ワールドカップ南アフリカ大会」を教材として取り上げ、文化、歴史、経済、環境、人種差別、地域間格差など、さまざまなテーマについてグループワークを通して学習しました。最終的には、体験した学習活動を踏まえて、独自の学習プログラムを作成し、それを実際に行ないました。
活動のプロセス	<p>全9回の分科会活動の前半4回は、各メンバーが受講者となって学習プログラムを体験しました。初回の授業時には「自己紹介用シート」を活用した自己紹介や、カラーシールを使って人種差別について考えるアイスブレイクのプログラムを行ないました。</p> <p>2回目以降は、特定非営利活動法人開発教育協会が作成した「FIFA ワールドカップ南アフリカ大会」に関する教材を活用し、学習会を進めていきました。具体的には、(1) 2010FIFA ワールドカップ参加国の国旗当てゲーム、(2) 数字で見るワールドカップ参加国（出場 32 カ国あれこれランキング）、(3) 私たちの日本代表チームをつくろう、の3つのプログラムを体験しました。</p> <p>5回目以降は、体験したプログラムをヒントにして、4つのグループに分かれてそれぞれプログラムを作成することにしました。結果的に、1班：日本をワールドカップ開催国にするために、2班：ワールドカップ上位入賞国のお国事情、3班：みんなが楽しめるワールドカップ、4班：ワールドカップがもたらす経済効果、というタイトルのプログラムが発表されました。発表後には、(1) テーマとの関連性、(2) 内容、(3) 方法、(4) 対象に合っているか、(5) 独創性の5つの観点からお互いに採点を行ない、優秀発表を選定しました。</p>
まとめ	最後は、優秀発表に選ばれた4班を中心に、役割分担をしながら全体会の発表準備に取り掛かりました。まとめとして、子どもたちを含めた多くの人たちが関心をもっているワールドカップの教材としての特徴を活用することの大切さが確認されました。